2005年、ヨハネ・パウロ二世の四旬節 メッセージ「老齢に きすることは、あるしる あるものです」。

ヨハネ・パウロ二世は2005年 の四旬節メッセージを発表し た。今年の四旬節は、「灰の 水曜日」に始まり、「聖木曜 日の主の晩餐ミサの前」で終 わる。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん!

1. 毎年訪れる四旬節は、わたした ちに祈りを強め、悔い改めて心を開 き、神のみ旨を従順に受け入れるよ い機会を与えてくれます。四旬節の 間、わたしたちがたどる霊的旅路 は、キリストの死と復活という大い なる秘義を思い起こす準備をするた めのものです。その実現のために は、第一に、神のみことばにより熱 心に耳を傾け、さらに、より惜しみ なく節制を実践することが必要で す。こうすることで、苦しみのうち にある人々をより広く援助すること ができるようになります。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、今年わたしがあなたがたの心に留めてほしいと願うテーマは、むしろ今日的な

もので、申命記の次の一節でよく表 されていることです。「神を愛する こと、(…)それがまさしくあなたの いのちであり、あなたは長く生きる (…)」(30・20参照)。これは、 モーセがイスラエルの人々に向けて 語ったことばであり、モアブの地で 主との契約を結び、「あなたもあな たの子孫もいのちを得るようにし、 あなたの神、主を愛し、み声を聞 き、主につき従う| (30・19?20) よう人々に呼びかけたことばです。 こうした主との契約への忠誠は、イ スラエルにとって未来への保証でし た。「(あなたがたは、)主があな たの先祖アブラハム、イサク、ヤコ ブに与えると誓われた土地に住むこ とができる | (30・20)。 聖書的な 理解によれば、老齢に達すること は、いと高きかたの恵みあふれる慈 しみのしるしです。ですから、長寿 は神の特別な贈り物だと言えるので す。

このテーマについて、四旬節の間に 省みるようあなたがたにお願いした いと思います。それは、高齢者が社 会や教会で果たすよう期待されてい る役割への気づきを深めるためで す。そうすることで、あなたがたの 心は整い、いつも高齢者に向けられ るはずの、愛情のこもった歓待がで きるようになります。科学と医学の 進歩によって、今日の社会では人間 の寿命は長くなり、結果として高齢 者の人口が増えています。ここで要 求されるのは、いわゆる「高齢」社 会へのより踏み込んだ配慮です。そ れは、共同体全体への奉仕に参加す ることで、社会の構成メンバーの潜 在能力を十分に生かしてもらうため です。とりわけ、高齢者が困難な状 況に置かれている場合には、そのケ アはすべての信者にとっての大きな 関心事となり、この問題が顕著に表 れている西側世界の教会共同体では とくにそうなるはずです。

2. 人のいのちは貴いたまものとし て愛され、そのすべての段階におい て守られるべきです。「殺してはな らない というおきては、その始ま りから自然な終わりまで、人命の尊 重と擁護をつねに要求しています。 このおきては、病気や身体的な弱さ によって、自らに頼むこともできな いほど能力が衰えてしまった場合に も当てはまります。年老いていくこ とを、その避けられない健康状態と ともに、信仰の光のうちに穏やかに 受け入れれば、人間としての存在に 豊かな意味を与える十字架の秘義 を、よりよく理解するためのはかり しれない機会にすることができま す。

この観点から、高齢者を理解し、援助する必要があります。ここでわたしは、こうした必要を満たすために自らをささげている人々に感謝を表したいと思います。また、ほかの善意の人々にも、この四旬節の機会

に、個人的な貢献をするようお願い します。それによって、多くの高齢 者たちが、自分たちを共同体の、さ して時には自らの家族にとってさえ も重荷だと考えることがないように し、寂しい生活を送り、孤立するか ようにすることができます。

世論の中に、高齢者はどんな場合であるという。 ・高齢者はどんな場合であるという。 ・高齢者であるという。 ・はあるすがありません。 ・はる主導を強め、いよっでははいりません。 ・はるがいません。 ・はないはに、 ・はないはに、 を強めないない。 ・はないはに、 に、はるようにない。 ・でのが発展した。 に、なるようになった。 に、おるようになった。 に、おるようにない。 に、おるようにない。 に、おるようにない。 に、おるようにない。 に、おるとともたらしてきました。

3. 人生のこの段階で得られるより まとまった自由時間は、高齢者に根

本的な問題と向き合う機会を与えて くれます。そうした問題は、差し 迫った関心事によってか、または優 先順位が低いものとして、以前ませ に押しやられていたのかもしとは ん。人生の最終目標が近いこを ることに集中し、年月の経過に要性を も損なわれないそれらに も損なわれなります。

まさにこうした状態にあるからこ そ、高齢者は社会でその役割を果た すことができるのです。人が先人の 遺した伝統によって生き、その未 が最終的に、民族の文化的価値が が伝えられてきたかにかかる としたら、高齢者の知恵と経験に といっそう完全な形態の文明 けた進歩への道を明るく にとができるでしょう。

このようにして、違った世代が互い を豊かにできることを再発見するこ

とはとても大切です。四旬節は、回 心と連帯への強い呼びかけによっ て、だれにでも関係するこうした大 切なテーマに集中するよう、今年も わたしたちを導いています。神の民 が最近見られるある風潮に流され、 こうしたわたしたちの兄弟姉妹を、 年齢による困難または病気のために 能力が衰えているからといって、ほ とんど役に立たないなどと考えてし まうような精神構造に屈してしまっ たらどうなることでしょう。そうで はなく、家庭から始めて、いつも高 齢者に向かって開かれ、彼らを歓待 するよう努力するなら、その共同体 はどんなにか変わることでしょう か。

4. 親愛なる兄弟姉妹の皆さん、四旬節の間に、神のみことばに助けられて、各共同体が年老いていく人々に、愛情豊かな理解とともに寄り添うことがいかに大切かを省みましょう。さらには、死の神秘について確

信をもって考えることに慣れていく 必要があります。そうすることでで、神との最終的な出会いを、内面的たいではつれた。 平安のうちに、「母の胎内にわた」(詩編 139・13参照)かた、そして、ただったがで自分にかたどって、ないできる際)したさることができるのです。

四旬節の旅路に伴ってくださるマリアが、すべての信者を、とくにませたの信者を、死んで復活されたキリスで復活されたもの存在の究極したちの存在の究でしたりいます。 神リとして、くださいでもして、ださいでもいるように、「人といますように。

すべての人にわたしの祝福を送りま す。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/2005nian-yohane-pauroer-shi-nosi-xun-jie-metsusezi-lao-ling-nida-surukotoha-itogao-kikatanohui-miahureruci-shiminoshirushidesu/(2025/12/15)